

【三井住友フィナンシャルグループ 2009年新春セミナー】
これからの中中国ビジネスのあり方を考える
～不透明感の高まる中国市場における新たなビジネスチャンス～

日本総研は、シンクタンク・コンサルティング機能を共に有する数少ない総合研究所として、これからの中中国経済を俯瞰し、成熟化する中国市場におけるビジネス展開のあり方についてご提案させていただきたいと考えています。今後の中国市場を考え、新たなビジネスチャンスを企業様と共に追求して参りたいと思います。是非積極的なご参加をお願い致します。

日 時	2009年1月13日(火) 14:00~18:00(セミナー後懇親会)
会 場	上海環球金融中心 会議中心4階Grand Ball Room (上海市浦東新区世紀大道100号)
対 象	日本企業の中国ご担当・現地法人経営者の方々
定 員	先着200名
受講料	無料
主催	日本総合研究所 三井住友銀行上海支店

■ プログラム

14:00-14:10 ご挨拶

日本総合研究所 代表取締役社長

木本 泰行

～日本総合研究所～

14:10- 15:10 講演 1 金融危機下の中国経済とその展望

日本総合研究所 理事 日総(上海)投資諮詢有限公司 董事長

吳 軍華

世界経済が米国発の金融危機で大きく揺れ動くなか、二ヶタ高成長を謳歌してきた中国経済も大きな転換点を迎えました。急速な金融緩和、大規模な財政出動、輸出還付税率の引き下げ、景気刺激策が矢継ぎ早に打ち出されてきたのを受けて、2009年以降の中国経済にどのような展望を持つことができるのでしょうか。中国経済の実態を分析しつつその先行きについての見通しを明らかにします。

(講演1、2、3ともに講演後、適宜質疑応答を行います)

15:20-16:40 講演 2 これからの中国市場における企業経営の方向性

日本総合研究所 総合研究部門 ディレクター兼主席研究員
「成熟市場における営業活動のあり方(ケーススタディーを含む)」

木下 輝彦

中国沿岸部における市場も徐々に成熟化しつつあります。成長市場の特徴である「明確なニーズに対する量的な資源投下」から「曖昧化するニーズに対する質的な資源投下」へと転換する準備を進めなければなりません。市場変化に対する戦略変容がもっとも難しい「営業・マーケティング部門における改革の方向性」について製薬、住宅設備、食品等のケーススタディを紐解きながら提言します。

寺崎 文勝

「転換期を迎える中国人才マネジメント(ケーススタディーを含む)」

賃金水準の上昇と労働契約法改正による長期雇用化により、中国における人材マネジメントは、これまでのモデルからの脱却を迫られています。また、日本型マネジメントだけでなく、米国型マネジメントを取り入れた企業でも中国人才を活用することは難しいとの声が多く聞かれます。「中国型マネジメント」の可能性について検証します。

～三井住友銀行～

16:50-17:50 講演 3 米国発の金融危機・・・2009年の相場への影響

三井住友銀行 市場営業統括部 チーフ・エコノミスト 山下えつ子

米国発の金融危機によって、中国を始めとする新興国でも経済の減速が顕著になってきました。そもそも金融危機はどのようにして発生し、今、マーケットはどのような状態になっているのでしょうか。2009年には、その米国にはオバマ新大統領も誕生します。米中関係にも影響がありそうですが、今後の経済・金融市场、そして人民元為替動向を、グローバルな視点から展望します。

17:50- 18:00 ご挨拶

株式会社三井住友銀行 常務執行役員 中国本部長兼上海支店長

正木 浩三

※セミナー後、18:00~19:00で懇親会・名刺交換会を行います。是非ご参加下さい。